

# 市民による持続可能な “子育て応援地域ポータルサイト” 構築プロジェクト

「子育て情報サイトがあるといいな…」「子育てしやすいまちを自分たちの手で！」  
ママ&パパや支援者の間から自然に湧き上がってきた声。  
このプロジェクトはそんな思いが結集してスタートしました。  
子育て中に必要とされるさまざまな情報を当事者と支援者両方の視点から一元化して、  
地域全体で子どもたちを育む“人と情報のネットワーク”創出をめざします！

◆Project Contents◆

- \*子育てを支援する地域情報ポータルサイトを作る！
- \*地域ぐるみで子育てすることの大切さを学ぶ！
- \*草の根でがんばる子育て支援者の情報発信力アップ！



## ココトモ運営委員会メンバー紹介

恵を同じくする人たちと、  
目標に向かって時間と  
会話を共有することで、  
意見が累加ではなく積となった  
瞬間を感じました。  
この出逢いが  
続いていきますように！

「ココトモ」が未来永劫  
続いていくよう、  
微力ですが協力して  
いきたいと思ってます。

自分たちの思いを「伝えること」  
「形にすること」の難しさ、  
楽しさを痛感しました。  
そんな思いで出来上がった  
「ココトモ」が今後どんどん広がり、  
さらに発展していく  
ように願っています。

運営委員になり、  
私自身の気持ちも  
楽しく積極的になりました。  
ココトモの輪が世代を超えて広がり、  
たくさんの笑顔が  
うまれますように。

日々の子育てに時代の流れを  
良くも悪くも感じています。  
「ココトモ」が子育てについて  
考える場となれば。  
と思っています。

「ココトモ」が  
どんどん皆さんの生活の中に  
定着していくよう  
大切に育てたいです。

バラバラだった情報が  
「ココトモ」でひとつに。  
ここからだ。人がつながり、  
夢も広がる鳥根へ。

現役ママ・パパの  
使い勝手のいいサイト  
を目指しています。  
これからはみんなで  
子どものように  
育ててください。

端山先生の講演にも  
ありましたが、  
「ココトモ」が新しい時代のご縁を育み、  
社会全体の子育て観が  
より豊かなものへと発展して  
いきますように。

誕生に際しておおろと  
見守るばかりの私。  
素晴らしいスタッフに恵まれて  
素敵に成長したココトモちゃん。  
笑顔溢れる子育ての  
サポート、よろしくね♪

皆で一緒に育てよう!!  
ココトモ

みんなの夢がだんだんカタチに。  
“ココトモ”に命が吹き込まれるのは、  
今からですね。  
このメンバーとの出会いに  
心から感謝！

私たちといっしょに  
ココトモを育ててくれる方  
**大募集!**

### 「ココトモ」のあゆみ

<p><b>2010年</b></p> <p>4月19日 しまね地域社会雇用創出協働事業に企画提案</p> <p>5月18日 しまね協働実践事業公開審査会 1位通過!</p> <p>27日・28日 しまね協働実践事業事前研修</p> <p>6月1日 スタッフ2名雇用開始</p> <p>2日 松江市に協力依頼</p> <p>23日 ★第1回サイト運営委員会</p> <p>30日 だんだん市長室(松江市)で協力依頼</p> <p>7月9日 ★第2回サイト運営委員会</p> <p>18日 サイト運営委員会メンバーリスト運用開始</p> <p>8月3日~24日 サイト愛称公募</p> <p>26日 ★第3回サイト運営委員会</p> <p>27日~8月8日 サイト愛称決選戦オンライン・街頭投票実施 →369票中140票獲得「ココトモ」に決定</p>	<p>8月8日~13日 鳥根県東部8市町役場に協力依頼</p> <p>17日 「ココトモ」仮オープン</p> <p>28日 ★第4回サイト運営委員会</p> <p>10月8日 「ココトモ」正式オープン</p> <p>14日 しまね協働実践事業中間振り返り検証会</p> <p>12月8日 CANPANプログラム開設サポート事業開始</p> <p>13日 ★第5回サイト運営委員会</p>
<p><b>2011年</b></p> <p>1月 7日 ココトモ運営委員交流会</p> <p>24日 ★第6回サイト運営委員会</p> <p>2月20日 端山 均氏講演会</p> <p>3月 7日 ★第7回サイト運営委員会</p> <p>11日 しまね協働実践事業振り返り検証会</p>	

\*  
子育てを支援する  
地域情報ポータルサイトを作る!  
\*

しまね子育て事情、ここに注目!—その1—

**子育てに必要な情報がバラバラに発信されていて見つけにくい!**

2010年春、島根県内に地域の子育て支援に特化したポータルサイトは存在していませんでした。さまざまな子育て支援情報は、行政・専門機関・市民活動団体等の各所が個別バラバラに発信していて、必要な人に必要な情報が届いているのか懸念されていました。紙媒体のハンドブック等の冊子を発行している市町もありますが、コスト削減と情報更新の面から、また若い世代の情報収集方法がケータイ中心となっていることから、ITの活用を進める必要がありました。子育て家庭を地域社会の支援とつなぎ、特に孤立して苦しんでいる家庭に情報を届けるために、市民の視点から子育て支援情報を一元化しました。

メディアでも  
注目されています!

**ブログ・フィード集**

〈トピックス〉  
こことも運営委員のブログ  
おすすめ子育てブログ  
など

**季節のおすすめサイト**

感染症情報  
花粉症対策  
お花見ガイド  
など

**子育て応援リンク集**

地域別情報  
公的サービス  
健康・病院  
おでかけ・あそび  
仲間をさがそう  
幼稚園・保育園・学校  
思春期  
お父さん  
相談窓口  
など

**ここともmixiコミュ**

〈トピックス〉  
・まずは、はじめまして(自己紹介)  
・マイミク申請OKな方はこちら  
・このイベントに行きます!!  
・こことも雑談トピ  
・オフ会します?  
・子育て支援者におすすめ!!

**イベント情報**

子どもと一緒に楽しめる  
各地のイベント情報です!

子育てがもっと楽しくなる  
情報満載!



パソコンでも!

ケータイでも!

おすすめサイト&  
イベント情報  
投稿お願いします!

こんなとき、こつとま



▼フォトしまね181号



▲読売新聞  
2010年10月5日

▲山陰中央新報社  
2010年9月29日

**ここともってどんなサイト?**

- **子育て当事者の子育て当事者による子育て当事者のためのサイト**  
子育て真っ最中のメンバーで「こことも運営委員会」を結成当事者の視点を活かして子育て情報を一元化しました
- **情報を探すだけじゃない! みんなでつくるサイト**  
オススメのサイトやイベント情報をユーザーが投稿コミュニティに参加して、子育て仲間づくりや情報交換も
- **地域ぐるみで子どもを育てるために**  
当事者や他団体、他自治体の情報もつかんで、支援ネットワークを拡げるツールに

●担当者から  
島根県での子育て情報ポータルサイトを作る...という大きな目標に向かって立ち上がった6月。協働事業の大きな柱であり、担当者一同、緊張しながらのスタートでした。まずは運営委員会を結成し、運営委員さんたちのご意見をいただきながら事務局は作業にかりました。それと平行してサイト名を公募しました。インターネット、街角アンケートを経て「こことも」に決定!9月17日に仮オープンを果たしました。それからは毎月の運営委員会で「こことも」について協議を重ね、デザイナーの須山さん、アドバイザーの目黒さんのお力も借りながらサイトを形にしてきました。また各市町の子育て担当部署を訪ねて協力をお願いしたことも、新たなつながりができるきっかけになりました。「こことも」は、いまや私たちの大切な子ども同様、日々成長中のサイトです。これからも多くの皆さんに可愛がって育てていただけるよう、進化していきます。今後も引き続きご意見や投稿をお待ちしておりますので、ぜひ皆様も「こことも」にご参加ください。よろしくお願いいたします。  
事務局/福田 志保

地域ぐるみで子育てすることの  
大切さを学ぶ!

しまね子育て事情、ここに注目!—その2—

子育てを取り巻く、行政・専門機関・市民活動団体の支援ネットワークが弱い!

「地域全体で子どもたちを健やかに育む」という視点で各セクターは課題を共有し連携していく必要があります。子育て家庭の不安・負担を軽減し、子育ての喜びを感じられる地域、子どもたちの健康と安全を守ることのできる地域、子どもたちの心身を健やかに育む豊かな体験や多様な人との出会いを大切にできる地域を創造するために、子どもや子育てを取り巻く支援者同士が互いを知り、何が足りないのか、何を指すのかを共に考え、共有していくことが求められています。その学習機会として、増山均氏のお話を伺いました。

こども講演会

●日時/2011年2月20日(日)14:30~17:00 島根県民会館大会議室

●演題/子どもが育ち・親がつながり・地域が活気づく  
——地域ぐるみの「子育て支援」とは——

●講師/増山 均氏(早稲田大学文学部教授)



◎講師プロフィール  
1948年、栃木県宇都宮市生まれ。日本福祉大学社会学部社会学部教授を経て、早稲田大学文学部教授。専門は、社会教育学、社会福祉学、子育て問題、教育・福祉問題、子どもの人権と文化問題など。総合的視点から研究を進めている。早稲田大学文学部教授でゼミナールや論文指導を担当。また東京大学教育学部大学院客員教授も兼任。日本子どもを守る会の副会長、「子ども白書」(日本子どもを守る会編集)の編集委員長。文部科学省「全国家庭教育フォーラム」、「全国教育委員長研修会」の講師をはじめ、東京都杉並区、中野区、新宿区など各自治体の子育て支援・家庭教育・社会教育関係の講座の講師、審議会の委員などを務める。

■100年前の日本の「子育て」システムがすばらしかったのは?

- ①子どもは生みの親だけでは育てられないとわかっていて
- ②発達の仕事みを「しきたり」として押さえていた
- ③子ども同士が集団で育つことができた

■では、今日の「子育て」は?

共同体の解体と「子育て支援」(社会保障)の必要性

- ・共同体の解体「個人化」「外部化」の進行
- ・「社会化」が必要→行政(公的)に足りないもの(ex.文化の分野など)はNPO、市民活動が行う
- 子育て困難、子育て不安
- ・子どもを持たない選択をする若者が増大(非正規雇用、保育所持機児童増加、教育費増大)
- ・乳幼児と触れ合うことのないまま、成人する。
- ・子育ての意義を伝えることの大切さ「子どもを育てる子ども」を育てる
- ライフサイクルにおける危機を乗り越えるために「つながり」=社会的ネットワークが必要
- ・保育期→虐待の危機
- ・思春期・思秋期・親の介護期の三つが重なり合う時期→「人生をどう豊かにするか?」ということ視野に入れた子育て支援

■今日必要な「子育て支援」とは何か?

現況の子育て支援政策の問題点

- ・就労支援=保育所の提供など→親自身が地域社会の住民として生活する「時間」を保障していない
- 子どもが施設(保育所、児童クラブ)と家しか知らない単親寡な生活
- ・請負ってしまうサービスの提供→親がつながること、成長することにつながったか
- ・乳幼児期までの支援に止まっているか→児童期・青少年期は?
- 子どもを育てる→三つの基礎感情を育てる
- ・自尊感情(大切にされている、見守られている、愛されている)
- ・自己肯定感(自信を持つ、希望をもつ、生きがいがある)
- ・自己有用感(人の役に立っている、ともに生きている)
- 子どもたちが育て合う
- ・「遊び」を通しての自然発生的な集団の中で育ち合う
- ・自分自身の役割があたえられ、責任を持つ
- ・年長者に「あこがれ」を抱き、近づこうとする「憧れに手をかけ、責任を足場に育つ」
- 子どもに育てられる→子どもを育てることを通じて、親自身が人として豊かに育っていく
- ・まなざし、捉え方=「子ども観」を豊かにしていく
- 「ハッピー子育て週刊」→日々の生活の中で発見した「いいこと」を書き綴ろう
- ・3つの「育」(養育・遊育・教育)→「教育」というだけでは子どもは育たない。家庭は「教育」の場というよりも「養育」こそが重要
- ・「監視」でなく「関心」のまなざしを子どもに向けた地域社会づくりを
- ・親が子育てに関わる時間を、地域で仲間と一緒に育つ時間を。子育て支援は「現金」「現物」以外に「時間」の保障が必要

質問① 住宅地に子どもがいません!子ども集団をどうやって作ればいいのか?

→例えば同学年の子どもを集めて教育する「学校」の在り方の発想を変えて、様々な年代の人々が、ともに学び交流する場づくりをする。福祉の場では「幼老統合ケア」という取り組みがあるが、子どもと高齢者がともに学び、暮らしを取り組むを広げる。

質問② 地域とはどういうものですか?行政区、学区などさまざまな捉え方がありますが、

→子どもを媒介にして自分のところから空室や人脈関係を拡大していくもの。生活圏・親密圏をつくっていくことが大切。

参加者の感想

※とても楽しく引き込まれるような話の中にしっかりと内容もつまっており、よくわかる講演でした。行政の立場として子育て支援を今後どう進めていくべきか、子育ての楽しさをたくさん伝えてあげられる支援者になりたいです。

※地域で関われる子どもを育てる為にも親が地域で関わるようにしその為の時間も支給してほしい。子育てだけでなく高齢化社会の問題等いろんな問題に結び付く話でした。

※自分は2人の子どもがおります。公民館(地域)の活動によく参加しますが、周りの友人などは子育てに地域との関わりが大切だと思っていない人の方が多く、自分の活動に自信が持てない時もありましたが、今日のお話を聞いて、自信を持ってがんばって続けていきたいと思いました。

※保育士です。子育ての請負をしていないか…にドキッとしました。延長保育、病児保育…子どもにとってそれがよいことか、と疑問に思っていた時期があったのに、だんだん当たり前に思ってきてしまっていました。事業を拡げるだけではだめだと改めて思いました。

※子育てとは「子どもを育てる子どもを育てること」というお話が印象的でした。子どもは未来そのものだと思います。まずは家庭の空気をよくするような子どもへのまなざし関わりをもっと持っていこうと改めて思いました。

※すごくわかりやすいお話でよかったです。目先だけのことを考えていました。地域を巻き込み、親-子孫をまるごと包み込むのが本当の子育て支援ということがわかり、まさにそうだと思いました。

※社会の課題・問題点が的確に捉えられ解説されて、頭の中が整理されました。現状・課題の把握はこれでよしとして、この先どうするか、まずは身の回りから→それはとても大事、そこから次につながる・つなげるのが大変。そのノウハウを考えたいなー。

※増山先生の「保育期」から「介護期」までのネットワークの話聞き、今まで子育て支援を狭い領域でしか考えていなかったことに気づかされました。私は保育所に勤めていますが、親同士のつながり、地域とのつながりを今まで以上に考えてみたいと思います。とてもわかりやすい講演で、是非もう一度聞いてみたいものです。

※自分が今まっただ中にある子育てのことしか頭にありませんでしたが、人生すべてに関わっていくことに危機感を持ちました。我が家はどんな空気かなあーとふと不安に。子どもにイライラとして、つい声を荒げることもあるけれど、なんとか総じて楽しめているのは、子どもが生まれてから知り合えたたくさんの「縁」があるからだだと思います。子どもは人と人をつなぐ不思議なパワーを持っていると思います。子どもや子育てをきっかけに、たくさんの人が世代を超えてつながり合えばいいと思いました。

●担当者から

担当になってものんびりしていた私に、竹田理事長から矢張り早に指示が飛びました。増山先生にメールして(これが一番緊張しました!)、チラシを作って、当日の流れも考えて、運営委員会にも相談しなければ…。

一番苦労したのは、広報です。今回の講演は支援側の方にたくさん聞いていただきたい!でもどういう人たちがいる?県東部8市町の子育て支援者、団体、行政にきめ細かく届けたい!でも予算もない!大島事務局長に発送に使える予算をしつこく尋ね…。団体の人脈を活かして関係各所に直接持参してもらったり、各市町にも配布をお願いしたり、もちろんブログやツイッターも使って、考えつく限りのところに情報を届けました。さらに当日まで気がかりだった交流タイム。参加者同士自由に交流するという格好でしたが、せっかくつながりを求めて来た参加者にもっと何か違うやり方を提供できたらよかったという点を反省しています。

理事長の「目標100名!」「動員はしない!」の指令に参加者が集まるかドキドキでしたが、日を迫るごとにどんどん申込みが増え、結果96名申込み88名ものご来場があり、参加者の満足度も非常に高く、無事終えることができました。ご協力いただいた皆様本当にありがとうございました。参加者の「良かったよ」の声が心に沁みわたり、新たなつながりを持たせたことを実感しました。

事務局/藤井 浩子



草の根でがんばる子育て支援者の  
情報発信力アップ!

しまね子育て事情、ここに注目!—その3—

### 市民活動団体の情報発信力が弱く、子育て家庭とつながっていない!

少子化・核家族化の進行と経済状況の悪化による共働き家庭の急増に伴い、地域の互助力低下、人間関係の希薄化が進んでいます。孤立した密室育児による不安や困難の中で子育ての重責を担う親が、「子どもを授かった喜びや育児の面白さ楽しさ」を感じられずに、育児放棄・虐待に陥るなどの問題も深刻化しています。

県内各地に子育てを草の根で支援する市民活動団体が多数存在するものの、その情報発信力が弱いために、せつかくの身近な支援活動が子育て家庭に有効に届いていないことが心配されています。失われかけている絆を地域に取り戻すために、市民団体やサークルの情報発信力向上をお手伝いしていきます。

今後も  
続けます!



ブログ開設と情報発信サポート始めました!  
CANPANブログは、NPO・市民活動を支援する日本財団が運営するブログサイトです。だから、商業広告なし! 無料です!

市民団体やサークルに  
アドニュース!

# CANPAN ブログ開設サポート

いたします!

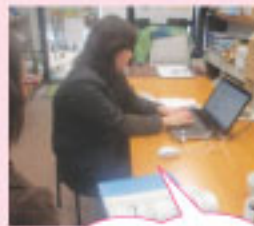
ブログは簡単＆効果的な情報発信ツールです。パソコンとインターネット環境が必要なのは開設時とはじめの設定だけ。あとはケータイからもメール感覚で更新できます。

開設後のお問い合わせも受け付けます。まずはお気軽にお問い合わせください!

お問い合わせ & お申し込み

NPO 法人おやこ劇場松江センター (担当: 福田・藤井)  
TEL 0852-22-4937 / E-mail onikomatsue@gmail.com  
島根県松江市末次本町32番地 (松江大橋北詰すぐ)

協賛: 日本財団 CANPAN



わかりやすく  
教えていただいて、  
初心者の私でも  
出来た時には  
達成感がありました。

## “こことも” から始まる、新しい地域ぐるみの子ども・子育て支援

特定非営利活動法人おやこ劇場松江センター  
理事長 竹田 尚子

この数年、子育て支援に関わる市民活動団体の中から、「子育て応援サイトがあったらいいね」「自分たちで作れないだろうか」という声が多く聞かれるようになってきました。そしてそのサイトは特定の団体や個人が作り運営するものではなく、みんなのサイトとして未永く持続できるものであることが大切という共通認識がありました。この度、「しまね地域社会雇用創出協働事業」として、島根県と協働でこの事業を実施できたのは、今できることとして最高のカタチだったと思います。

“こことも” は、子育て中に必要な情報を探す場であることももちろんですが、それらの情報をきっかけとして、血の通った温かな支援や子育て仲間との出会いにつながるツールとなることを期待しています。つまり、人と情報のネットワークを創り出すことが目的です。まずは子育て情報リンク集を充実させ、おすすめブログのフィード集や子育て当事者が参加できるコミュニティ、サイト情報・イベント情報などを投稿してもらえらる仕組みを作りました。使い勝手はまだまだで、改良し活用していくのはこれからです。ニーズに合わせ、“こことも” を進化させていきたいと思っています。

協働のパートナーである島根県青少年家庭課少子化対策推進室には、時に迷走する運営委員会と共に苦勞を分かち合っていたいただきました。お互いの言っていることや思いが理解できないこともありましたが、それを率直に質問したり意見し合ったりする関係をつくることができました。また、協働事業が今年度で終了した後(ゼロ予算になっても)、県は“こことも” 運営に関わり続けるというルールを作ることができたのも大きな収穫のひとつです。行政、運営委員、ロゴデザイナー、サイト

デザイナー、印刷業者などの多様な主体との共同作業は、自分たちのペースで進まない(お互いに)ことも含めてとても勉強になりました。この事業のおかげで、市民活動団体や市町の子育て支援担当課、若いママたちなどの多くの出会いがありました。その人間関係を活かしていくのも今後の楽しみな課題となります。

今年度の最後に、増山氏の講演を県内外の子育てを取り巻くさまざまな支援者と共に聴くことができました。「子育て期」をただ子どもの幼少期としてではなく、一生のライフサイクルの中でやがて同時に来る「子育て・更年期・介護」という困難期を支え合い克服するために自ら生活圏やネットワークを拡げていくべき時代と捉え、長いものさしで支援していく眼差しの必要を学びました。子育ての主演はあくまでも保護者自身。“こことも” は子ども・子育て支援の「名脇役」になりたいと思います。



島根県青少年家庭課少子化対策推進室  
古瀬 繁・植田 和枝

～子育てするなら島根が一番～これは平成22年3月に策定した「しまねっこすくすくプラン」のキャッチフレーズです。この計画でも子育てに関する情報発信を充実するという目標があります。今、子育て真っ最中の方がどんな情報を求めているのか、提供方法はどうしたらいいか、情報はどうやって集めたらいいか等々考え始めていたところ、おやこ劇場さんから提案があり、「これだ!」と諸手を挙げ賛同しました。特に民間団体の子育て情報の集約は、行政ではできそうでできない分野で、ここはおやこ劇場さんの力を借りようとの思いもあり、協働事業でのサイト立ち上げに至りました。

さて…ここともはこの10ヶ月でようやくスタートラインにたどり着いたに過ぎません。当室はプロジェクト終了後も運営に係ります。子育て中の皆さんから「ここともっていいわ。意外と島根は子育てにはいいところかも」と言ってもらえる日が来るまで、おやこ劇場さんと意見をぶつけ合いながら「こことも」を育てていこうと思っています。

### ●担当者から

おやこ劇場松江センター事務局として日ごろからCANAPANブログを利用しています。が、「使えること」と「人に教えること」の違いは大きく、「情報発信アドバイザー」としての責は重く感じられました。しかし実際に情報発信を必要としている方々と出逢い、つながれることは大きな喜びとなりました。

スタートはとて身近な団体の方から、いち早くこのサポートをご利用いただきました。県やふるさと島根定住財団からも広く広報をいただき、そのうち連年の、初めてお会いする団体も増えてきました。このブログ開設サポートがご縁で知り合った方も多くいらっしゃり、ご縁に感謝するばかりです。

最後になりましたが、私たちを支えてくださった日本財団の山田さん・CANPAN運営事務局・ふるさと島根定住財団の大江さんに、心より御礼申し上げます。

事務局/福田 志保